

2023年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組み

■総評は、報告書の総評における意見・課題を抜き出して中項目に分けた。
■2023年度報告書における意見・課題は新規課題か継続課題かを振り分け、担当している部門を明記した。新規の担当は、継続課題との関連と意見・課題の内容と部署の関連性から記載した。
■新規課題にはアンダーラインを引いて掲載した。

※1：2022年度の意見・課題への取り組み（年度末点検）をもとに、2023年度学校関係者評価報告書に示された意見・課題への取り組みの進め方を記述。
※2：中間点検は第2回学校関係者評価委員会に報告。
※3：年度末点検は次年度第1回学校関係者評価委員会に報告予定。

大項目	中項目	2023年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
重点目標	2. 重点目標と達成するための計画・方法 (1)TPCの育成と強化	○TPCの育成については、より一層学生の対話力が身につくような教育を望みたい。(2023年度総評) ○TPCの評価を定量的に判断できる指標が必要と感じる。(2023年度総評)	新規	校長	■コロナ以前の学生活動、アクティブラーニング、グループワーク等の集団活動が可能となった。 ■①外部評価、②自己評価と2つの方法があるが、入学前の自己評価と卒業時のそれとを比較する試みを検討していく。	■昨今の学生気質や世代による変化を理解したうえでの指導が求められる。また合理的配慮が必要な学生も見受けられることから、外部講師による研修会を実施し、学生対応の方法と理解に努めた。 ■次年度以降に向け、入学時評価と卒業時評価を検討していく。	■各学科で、対面によるグループ学習、アクティブラーニングの授業を復活した。外部講師による世代理解と対応について教職員全体で共有し、引き続き学生対応力の底上げを継続していく。 ■介護福祉科で行った入学時と卒業時の自己評価を他学科で実施できるよう発表、研修を行っていく。
1 教育理念・目的・育人人材像	(2)育人人材像は専門分野に関連する業界等の人材ニーズに適合しているか	○技術・技能・知識を身につけて、医療関連・介護関連のスタッフとして十分力を発揮し、自立できるような学生を育ててほしい。(2023年度総評)	新規	医療秘書科	■学生自身が医療現場で求められる人材に成長していることを実感できるようなカリキュラムの策定を、随時行う。 ■専門知識・技能の習得と並行し、1年次からキャリア教育・社会人化教育をベースとした指導を目指す。	■秘書実務、医療関連法規、病院医療用語等の専門科目及び1年次前期から2年次前期に配置した病院受付実務において、科目を効果的に連携させる学びを実践している。医療の専門知識とコミュニケーションスキルを結びつけ、医療現場で求められる総合的なスキルの習得を目指している。 ■キャリアデザインと社会人基礎を中心に2年間で成長できるカリキュラムを配置している。	■医療現場で求められる総合的なスキルの習得については、2年次病院事務実習で生かされ、その後総括としての発表会（プレゼンテーション演習）において学生自身の言葉で発表ができた。発表準備の段階で学生の内省を促し、PDCAを実現できるよう努めた。 ■2年間のキャリアデザインがベースとなり、病院事務実習、就活を通して学生の社会人化は個人差はあるものの確実に進んだと捉えている。
			新規	医療事務IT科	■【医療事務】と【IT】の最新の専門知識や資格を身につけ、医療ITのスキルを活かして病院の未来を担う人材を育成するためのカリキュラムが用意されている。卒業までに段階的にステップアップできるようサポートし、卒業後も目的をもって成長できるような指導を心がけている。	■学生が、段階的に最新の専門知識や資格を身につけられるよう意識した授業作り、カリキュラム作りを行っており、2025年度入学生についても現在検討している。各教科の課題やアプリ学習、試験を常にブラッシュアップし、学生がそれぞれ目標を達成して、成長できるように指導している。	■卒業までに段階的にステップアップできるように、授業構成やカリキュラムを検討、作成した。また、学年ごとに定めた目標に向かって学生が成長できるように、課題やアプリ学習、試験を常にブラッシュアップし、サポートする体制を整えることができた。
			新規	診療情報管理科	■診療情報管理士の専門知識や関連する資格を身につけ、そのスキルを活かして病院の未来を担う人材を育成するためのカリキュラムが用意されている。卒業までに段階的にステップアップできるようサポートし、卒業後も目的をもって成長できるような指導を心がけている。	■学生が、段階的に最新の専門知識や資格を身につけられるよう意識した授業作り、カリキュラム作りを行っており、2025年度入学生についても現在検討している。各教科の課題やアプリ学習、試験を常にブラッシュアップし、学生がそれぞれ目標を達成して、成長できるように指導している。	■卒業までに段階的にステップアップできるように、授業構成やカリキュラムを検討、作成した。また、学年ごとに定めた目標に向かって学生が成長できるように、課題やアプリ学習、試験を常にブラッシュアップし、サポートする体制を整えることができた。
			新規	くすり・調剤事務科	■健康・美容に関する幅広い知識・技術を身につけることにより、様々な分野で活躍できる人材の育成を目指す。 ■資格取得に必要な知識だけでなく、働くうえで求められる応対方法や実技なども身に付けることができるよう、カリキュラムの策定を実施する。 ■実習を通じて職種に関する理解を深めることにより、職業観を育成する。	■第1回学校関係者評価委員会、第1回くすり・調剤事務分野教育課程編成委員会、学科会議などを通し2025年度入学生カリキュラムの見直しを行った。 ■より実践的な内容を授業に組み込めるよう兼任講師とも協力している。 ■薬店実習を実施し、より実践的な知識を身につけることができた。	■教育課程編成委員会、学科会議などを通して、2025年度入学生カリキュラムの変更に伴う授業内容や進行方法の見直しを行っている。 ■薬局実習を実施し、より実践的な知識を身につけることができた。
			新規	介護福祉科	■教育目標を到達するために、2022年度入学生から、学生が自ら考え行動できるようになることを4つの課題に整理し、ディプロマポリシーとして掲げてカリキュラムを再構築し実践している。その成果は教育課程編成委員会で報告し承認を得ている。 ■一人でも多くの学生が課題を達成できるよう、学習支援に取り組む。	■ディプロマポリシーは今年度も継続中である。年度末に学生の自己評価を実施し、その変化(成長)の度合いを視覚化する(対象は2年生)。 ■1年生については、補習課題を個別で設定し実施している。留学生については、日本語能力に応じて、日本語を使う環境をつくるよう提案している。授業では日本人学生と共同作業する機会を多く設け、日本語を使う環境を整えてきた。	■ディプロマポリシー(4つの課題)達成度(学生自己評価)の結果を以下に記す。※数値はS評価+A評価が全体に占める割合を表している。①「共有できる」72.2%→88.9%②「協働できる」44.4%→50.0%③「想像できる」38.9%→72.2%④「満足解思考ができる」50.0%→83.3%※③④のS評価の伸びが、それぞれ③5.6%→33.3%④16.7%→38.9%と顕著であった。専門的な知識と技術の修得に基づき、具体的に想像・創造できるようになったことで、お客様にご満足いただけるサービスをつくる発想の基盤が構築された者と評価できる。また同時に客観的に自己を捉える力も向上したと考えられる。カリキュラムの実効性と学生の成長する力の相乗効果によるものと考えられる。 ■新入学生に対しても、個別に対応しながら継続実施していく。
			新規	看護科	■3年間の教育で目指すところは多様な価値観と生き方をもつ対象を総合的に捉え健康の維持増進に向けた看護実践できる基礎的能力の育成である。授業や校内実習・臨地実習を繰り返しながら学んでいる。その過程において患者・家族だけではなく他の学生との意見交換や現場で指導に関わるスタッフとの連携も必要である。このような体験を通してコミュニケーション能力の育成を語りながら取り組んでいる。	■本年度は新カリキュラムの完成年度であり、3年間のカリキュラム評価を意識しながら取り組んでいる。 学生は教育目標に掲げる専門職業人としてあるべき姿に向けてすぐに行動できるものではなく、その都度振り返り指導を継続する必要がある。加えて何故必要なのかについて丁寧な説明が必要であり、昨今の入学生の特性と傾向を踏まえつつ取り組んでいる。	■新カリキュラム運営を3年間実施し完成年度である2024年度は34名が卒業した。旧カリキュラムで入学した学生が混在するカリキュラム運営は必須履修科目が異なり困難であった。しかし、最終目標は専門職業人の基礎的能力を培う事であり個々の成長がみられた事は成果である。特に3年次の臨地実習では現場の看護師・患者に関わる事で大きな成長に繋がっている。
	(4)社会のニーズ等を踏まえた将来構想を抱いているか	○外国人の支援や社会人の学び直しについては、引き続き社会のニーズを的確にとらえ、先を見越して運営することが望まれる。	継続	校長	■さまざまなチャネルを通じて、社会の学びに対するニーズを把握するため、学内はもとより学外(業界団体)へのネットワークを強化している。	■専門学校業界チャネルによる情報収集、産業界への情報収集、日本語学校等からも情報収集を行い、新学科等の検討をしている。	■可能な限りの業界会合に出席し、情報収集に努めた。各種情報を精査し、新学科設立を決定し、その立ち上げ、フォローに外部識者の協力を得た。

大項目	中項目	2023年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
3 教育活動	2. 教育方法・評価等 (1)教育目的・目標に沿った教育課程を編成しているか	○在学中に社会人としてのコミュニケーションスキルが身につくような授業の仕組みづくりに期待したい。	継続	医療秘書科	■講義科目・演習科目において、学習効果が期待できる場面では積極的にグループワークを取り入れ、学生が役割を持つことから主体的な取り組みを引き出すことを目指す。 ■学校行事、学科イベントを通し、相手を思いやる気持ちを表現できるよう、教員は支援的な関与を心がける。	■学校関係者評価委員会及び医療事務分野教育課程編成委員会においてご意見を伺い、カリキュラムの検証と定着化を進めている。本校のTPC教育に基づく社会人化教育、マナー教育、コミュニケーション力の強化は引き続き学科の特徴として位置づけている。 ■医療機関従事者による講演を視聴する機会を設け、将来のキャリアプラン・目標を設定し、その実現のために主体的に学ぶことができるよう指導している。	■2025年度カリキュラムは、学校関係者委員会(年3回実施)および教育課程編成委員会(年2回実施)で伺ったご意見をもとに、学生が現場で求められる社会人として成長できることを念頭に策定した。 ■授業や病院実習等々、2年間の学校生活を通し、学生自身が将来のキャリアプランや目標を設定し、その実現のために主体的に学び続ける力を身につける指導を継続していく。
			継続	医療事務IT科	■授業の中でグループワークやディスカッションを取り入れ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを学んでいる。 また、他者と適切なコミュニケーションをとり、良好な人間関係を築くために必要な要素を学んでいる。	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、2025年度入学生カリキュラムの見直しを行っている。授業の中で、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の情報を伝え、具体的なコミュニケーションの取り方や、良好な人間関係を築く方法を伝えている。	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程委員会においていただいたご意見をもとに、カリキュラムの作成を行った。授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、社会人としてのコミュニケーションスキルを意識させ、それを身につけるための指導ができた。
			継続	診療情報管理科	■授業の中でグループワークやディスカッションを取り入れ、社会人として必要なコミュニケーションスキルを学んでいる。 また、他者と適切なコミュニケーションをとり、良好な人間関係を築くために必要な要素を学んでいる。	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程編成委員会にてご意見を伺い、2025年度入学生カリキュラムの見直しを行っている。授業の中で、各担当教員が自身の職業経験や医療業界の情報を伝え、具体的なコミュニケーションの取り方や、良好な人間関係を築く方法を伝えている。	■学校関係者評価委員会、医療事務分野教育課程委員会においていただいたご意見をもとに、カリキュラムの作成を行った。授業、講演、実習その他のあらゆる機会を通して、社会人としてのコミュニケーションスキルを意識させ、それを身につけるための指導ができた。
			継続	くすり・調剤事務科	■各授業の状況に合わせペアワークやグループワークを段階的に取り入れ、他者とのコミュニケーションや意見交換ができる機会を確保するように授業担当教員に依頼している。	■授業でのペアワークやグループワークの他、1年生と2年生で合同授業を実施し、就職活動や試験対策などの意見交換を行うことでコミュニケーション能力の育成を行った。 ■サークル活動を行い、授業外でも人間関係の構築をサポートしている。	■授業でのペアワークやグループワークの他、1年生と2年生で合同授業を実施し、就職活動や試験対策などの意見交換を行うことでコミュニケーション能力の育成を行った。 ■サークル活動を月に2回以上実施し、学科を越えて交流を行っている。
			継続	介護福祉科	■学習活動の基盤を「認め合う」「助け合う」「成長し合う」言動の実践とし、アクティブラーニングを継続する。 ■学習活動は「やってみる」「考える」「わからないままにしない」「確かめる」ことの習慣化を目指す。 ■学びを楽しめる学習体験となるよう改善する。	■問題や課題を共有するための意見交換や、共有したものを表現(表出)する共同作業を、講義科目、演習科目を問わず授業に取り入れている。 ■「わからないままにしない」「確かめる」については、4月当初は恥ずかしさや遠慮があったようだが、第1段階実習が終わった頃から、教員への質問やリクエストが増えるようになってきている(1年生)。国試の準備が始まった頃から、試験勉強に関しての質問やリクエスト、就職活動への質問やリクエストは増えてきている(2年生)。 ■今年度も昨年度に続き、実習先を開拓し選択肢を増やしたことで、学生にとってよりポジティブな体験学習ができる実習となった。	■2年生の成長が目覚ましく、コミュニケーション能力は実習先で高く評価していただくことができた。 ■ケーススタディ発表会(2年生)と介護実習報告会(1年生)の内容と巡回指導時にヒアリング等から、実習を楽しめた(現場での学びを楽しめた):コミュニケーションに関する多くの学びと気づきを得ることができたことが確認できた。介護実習指導者並びに、実習施設の環境と指導、学内演習との連携の成果であると考える。 ■新入学生に対しても、個別に対応しながら継続実施していく。
			継続	看護科	■1年次後期の科目に人間関係論Ⅰ・Ⅱを設定し人間関係の構築について学ぶ講義を設けている。他の科目においても授業の学びを深めるためにグループワークなどにおいて自分と他者の関係を感じながら学び体験する機会がある。特に臨地実習では患者との関係や指導者・及びチームを意識したコミュニケーションが必要な場が多い。その過程で自己のコミュニケーション力の課題を認識し学生自身も課題に向けて前向きに取り組めるような支援に取り組んでいる。	■若い学生たちに看護職としてのコミュニケーション能力を培う場として、臨地実習などは成長の機会となっている。実践だけではなく講義での知識を基に臨地実習等でスキルを身につけていく。実践においては失敗なども経験し、成長と課題の両側面を感じながら取り組めるように支援を継続している。	■コミュニケーション力の育成に向け必要な知識を授業を1年次に設定している。臨地実習の場で自己のコミュニケーション課題に気づきながら能力を培っている。学びのサイクルにおいて授業+実習の繰り返すことで力を養っていくことが重要であると考える。今後とも自己の体験を振り返りながら学びとして得られるような教育に取り組んでいく。
		○発表形式の授業は、自分の考えを人前で話すことの慣れが就職活動や仕事に役立つと言われている。引き続きの取り組みが望まれる。	継続	医療秘書科	■物怖じせずに自己表現ができるよう、1年次から発表の機会を設ける。ペアワークから始め、クラス全体へのプレゼンテーションができるよう、授業やキャリアサポートプログラム、学校行事をスキルアップの場として活用し、段階を踏んだ取り組みを意識していく。	■1年次の「ホスピタリティ」「病院受付実務Ⅰ」、2年次の「病院受付実務Ⅱ」「キャリアデザイン(面接指導)」「病院事務実習指導」「プレゼンテーション演習」等、複数の教科目においてグループディスカッションや発表形式の授業を取り入れている。 ■聞き手として多様な考えを受け止める柔軟性を養う指導を個別面談等を通し日頃から実践している。	■複数の科目においてグループディスカッションや発表形式の授業を積極的に取り入れた。発表は学科教員が参観し、学生の成長を確認するとともに、次年度カリキュラム策定の参考とした。 ■表現力を養うとともに、聞き手としても多様な考えを受け止める柔軟性を養う指導を日頃から実践した。
			継続	医療事務IT科	■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。	■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。	■一部の教科では発表形式を取り入れた授業が行われている。自身の考えをまとめ、他者に理解してもらえるように表現するスキルを身につけるため、様々な機会を用意し指導を行っている。
			継続	診療情報管理科	■授業だけではなく学校生活における様々な場面において、自分の考えを他者に理解してもらえるよう表現することは非常に重要であるので、1年次から段階を経て意見を発表する機会を与え、徐々に習熟するよう指導する。	■クラス内で自身で考え、意見を発信する指導は各教科の担当教員が行っている。	■一部の教科では発表形式を取り入れた授業が行われている。自身の考えをまとめ、他者に理解してもらえるように表現するスキルを身につけるため、様々な機会を用意し指導を行っている。
			継続	くすり・調剤事務科	■授業内において個人やグループで発表をする機会を設けており、クラスメイトや教員からフィードバックを得ることににより反省や気づきの機会となっている。	■パソコンや美容の授業において、プレゼンテーションや発表を行っている。また、薬店実習でもグループディスカッションや発表をおこない、企業の人事担当者からフィードバックをいただいた。	■キャリアサポートセンターと協力し、就職活動に向けた指導を行っている。また、外部インストラクターの下、模擬面接指導を行い、質問の受け答えや態度、表情などの指導を行っている。
			継続	介護福祉科	■2年間の学習活動の集大成として、ケーススタディ発表会を毎年実施している。今年度は、発表会参加者(招待者)の数を増やし、より多くの多様な人たちの前でプレゼンテーションができるよう、環境を整える。 ■ケーススタディをやり切るための学習活動として、「調べ学習」「体験学習」「考察学習」「創作活動」等を各科目の授業で繰り返し、発表(表現)する機会を日常的に設けることで実践力を高める。	■ケーススタディ発表会に向けた準備ともなる5週間の実習が9月に入って始まった(2年生)。この実習に向けた準備と、実習の課題を達成することが、ケーススタディ発表の成功に繋がる。 ■2年生は、1年時より授業と実習を通してプレゼンテーション力を高めてきた。1年生は、2つの実習を終え、後期に入り、学校行事を含めて自己表出の機会が増えていく。	■2年生の後期は多忙を極めるが、そんな中でケーススタディ発表会を成し遂げた「やり切る力」は高く評価できるものであった。学生のプレゼン能力も飛躍的に高まっており、1年生からの質問にも堂々と回答(説明)する姿はとて頼もしいものであった。 ■1年生の介護実習報告会については、個々の発表内容のレベルの高さに喜びを禁じ得なかった。プレゼン力については、成長著しい学生と、発展途上の学生とに評価が分かれたが、「挑戦する姿勢」は学生全員が披露できていた。1年間の成果が現れていたものと評価できる。 ■新入学生に対しても、個別に対応しながら継続実施していく。
			継続	看護科	■臨地実習は学生個々に体験も異なり学びもそれぞれに異なる事が多い。個々の体験をカンファレンスなどで伝える機会を通して自己の考えを述べられるように支援している。更にクラス全体で討議し意見交換を行う機会を設け、自分あるいはグループの考えを発表する経験が出来るように取り組んでいる。また、カンファレンスなどは他者の意見を聴く事も重要であり自己だけでなく他者の考えを聴く事や司会進行などの役割を担う機会により成長につなげている。	■自己の意見を述べる機会は、臨地実習においてはカンファレンスの機会を通じて学んでいる。また、クラス全体でのカンファレンスにおいては事前準備を行い意見交換ができるように取り組むように進めている。日頃の授業においては、グループワーク・プレゼンを取り入れる授業展開が増えている。高校までにアクティブラーニングで学んできた学生も増えており、以前よりプレゼンに慣れた学生が増えた傾向が見られている。継続して取り組んでいく。	■日々の授業において、まとめ・発表など能動的な授業に取り組む場数を踏みながら学習に取り組んでいる。また、意欲的に取り組む様子がみられ効果的な学習方法だと言える。 まとめ、発表などの経験値を高める授業方法は今後も継続して取り組んでいく。更に能動的な授業方法を取り入れる授業も多くなるよう今後も継続して取り組んでいく。
			継続	教務委員会	■前年度に引き続き、兼任講師が行う授業は基本的に参観できるように実施しており、授業方法や内容などを取り入れ、授業の質向上を目指している。また、兼任講師についても自由に参観できる旨の案内を行っている。	■前期科目の授業公開は問題なく終了した。後期科目についても積極的な参加を促していく。	■後期科目の授業公開も問題なく終了した。 ■兼任講師の科目についても、多くの方に公開にご賛同・協力いただいた。

大項目	中項目	2023年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
4 学修成果	2. 資格、免許の取得率	○資格・検定取得は、専門学校教育の大きなテーマの一つであることから、その取り組みと成果を本校の強みとして謳えるように、引き続きしっかりと進めてほしい。	継続	校長	■各学科で、年度初めに学科運営計画を策定し、中間点検、年度末点検を実施している。検定対策講座やアプリの導入等、各学科の教育に沿った対策を講じていく。	■学科ごとの学科運営計画に示された目標の進捗状況を把握、また目標達成できるよう支援している。	■学科ごとに目標に掲げる数値をほぼ満たした。留学生が増えていくため、さらなる工夫が必要である。
			継続	医療秘書科	■学科運営計画に示した卒業時検定合格率の達成に向け、一部科目については進度別クラス編成を継続する。 ■2年次後期の検定にも挑戦できる科目配置にしており、検定上位級の受験者数を増やし伸び残しのない指導を継続する。	■6月の検定試験、7月の診療報酬請求事務能力認定試験は例年通り習熟度別クラスを設定し、想定した成績を収めることができた。 ■医師事務作業補助技能認定試験は、職種の求人数が多いことから、昨年度同様に受験を推奨した。	■各種検定試験、認定試験の取得率は前年度とほぼ同様の成績を収めることができた。 ■次年度は2年次選択コースにおいて2つの新規検定に取り組む。担当兼任講師と十分に連携を図り、卒業時検定取得数、取得率の向上をめざしたいと考えている。
			継続	医療事務IT科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。ITパスポートの取得を目指し入学時より段階的に知識を増やしてゆく。	■診療報酬請求事務能力認定試験、医師事務作業補助技能認定試験の取得率の増加を目指し、継続的に指導を強化している。引き続き、すべての試験においてより上位級の取得を推進するよう指導に努める。	■学科目標に到達できなかった試験もあった。それぞれの学生に合った指導方法を検討し、引き続き目標に向かってサポートしてゆく。
			継続	診療情報管理科	■学科目標を設定し、その達成のための対策を推進する。特に診療報酬請求事務能力認定試験の取得率の増加を目指す。より上位級の取得を推進するとともに、資格未取得のまま卒業させることのないよう尽力する。また業界ニーズの高い医師事務作業補助技能認定試験に注力し、受験率を高め合格者を増やすよう努める。医療情報技師能力検定の取得を目指し、卒業後でも勉強を続けてゆけるようにサポート体制を整える。	■診療報酬請求事務能力認定試験、医師事務作業補助技能認定試験、医療情報技師能力検定の取得率の増加を目指し、継続的に指導を強化している。引き続き、すべての試験においてより上位級の取得を推進するよう指導に努める。	■各検定試験の取得率は前年度とほぼ同様の優秀な成績を収めることができた。卒業後の資格試験の受験についても引き続きサポートしてゆく。
			継続	くすり・調剤事務科	■学科が目標として掲げている資格や、さらに上位級に挑戦するように動機づけを行う。 ■学生が自身の成長や苦手な箇所を認識できるように問題演習の点数を継続的に計測し、その結果に基づいたアドバイスを実施する。 ■業界関係者から意見を頂戴し、学習意欲が高まるようカリキュラムを見直す。	■学生の資格取得に対する意欲が高く、より上位の資格取得に挑戦している。 ■前期期間中に登録販売者試験の合格点に達していない2年生に対し、夏季休暇中に補講を実施した。また、1年生で資格取得を目指している学生も参加しており、より多くの資格取得を目標として学習している。 ■関連企業と継続的にカリキュラムについて打ち合わせをおこなっている。	■2025年度から、より資格試験の時期を意識したカリキュラムへと変更を行った。 ■授業や補講、放課後の個別指導など、様々な支援を行った。結果として、登録販売者試験の合格率は前年度より上昇した。
			継続	介護福祉科	■国家試験合格率・資格取得率100%を目指す。 ■今年度も例年通り、資格取得率や国家試験合格率を公表し、その成果を発信する。 ■特に国家試験合格率は、前年度の実績を上回るよう、個別の学習支援方法、とりわけ外国人留学生への学習支援方法を改善する。	■クラス全体として一つの目標に向かっていく機運を高めるための工夫を担当を中心に行なっている。具体的には、「今どんな努力をすれば良いか」を、学生の意向を確かめながら提示している。また推奨する行動モデルも具体的に提供している。	■リクリエーション介護士2級:全員取得(2年生) ■上級救命技能認定:全員取得(2年生)
			継続	看護科	■1年次から看護師国家試験に向けて試験の傾向と対策に取り組んでいる。また学内だけではなく業者模試を受験し実力を把握しながら支援に取り組んでいる。受験後は振り返り自分の弱点对策をしている。卒業学年である3年次は学生を少数に分け各教員が個々の学習サポートに取り組んでいる。	■試験合格にむけて自己の学習も必要であるが、全国との比較も必要である。よって、各学年に業者模試の機会を設け、実力を測りながら取り組んでいる。3年次においては全員を小人数グループに分け教員が学習状況を把握しながら学習支援に当たっている。学生は自分の担当教員とコンタクトを取りながら取り組むことで精神的サポートになっている。	■国家試験合格に向け問題アプリ導入・教員サポート・教員ゼミ・業者ゼミなど取り組んだ。サポートにより成績上昇・モチベーション向上などの成果があった。次年度は実習場の変更もあり一層の支援計画によりサポートに取り組んでいく。
	3. 卒業生の社会的評価	○多くの卒業生を業界に輩出しており、高い評価を受け活躍している人材も多にいると思うので、それらの人材情報の把握と今後のそれら人材との連携に期待したい。(2023年度総評)	新規	CSC	■卒業生の状況については、実習訪問時や年度末の就職先訪問時、また就職先の来校時に確認を行っている。また卒業生キャリア報告会といった卒業生の来校の機会を捉えた個別の確認も行っている。今後それらを活用し、在校生の就職の支援活動や広報活動に協力を求め一層の連携を図っていきたい。	■今年度、実習はかなりの病院で行えており、実習での訪問を通じて聞き取りが出来ている。年度末にかけても就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っていく。また今年度新たに就職先との連携策として、広報用の動画の撮影を実績のある病院にお願いした。	■実習での訪問や就職先が来学された機会を通じて聞き取りが出来ている。年度末にかけても就職実績のある病院への訪問を通じ聞き取りを行っていく。
5 学生支援	2. 中途退学への対応	○入学後の手厚いサポート等、退学防止の取り組みに努めてほしい。(2022年度総評)	継続	校長	■入学後から担任による全学生の面接を実施し、入学動機や家族、悩み等を確認している。引き続き、保健室やカウンセラー、担任との連携を強化し、退学防止に取り組んでいく。	■計画通り、担任による面談を通じた学生把握を実施。家庭やメンタル面での諸問題に対し、保健室やカウンセラー等の支援体制により中退防止に努めている。	■目標達成できた。きめ細かな学生とのコミュニケーションを心がけてきた成果と考える。これまでに以上に保健室やカウンセラーとの連携が必要である。
			継続	学生委員会	■引き続きクラス担任、教員、保健室、カウンセラー等、協力体制を強化し、毎月情報共有をしながら退学防止に取り組んでいく。 ■サークル活動を活性化させたり、学校行事(体育祭や学園祭)に積極的に関わらせたりして、学生の居場所づくりを行う。 ■7階演習室を「個人スペース」として、一人の時間を過ごせる場所を提供する。	■5月にカウンセラーによるメンタルヘルスケア講座を実施した。また、調査・分析・他校事例調査を継続し、協力体制の強化に取り組んでいる。 ■新規サークルの募集活動を行い新たに2サークル設立。5月に「サークル勧誘活動イベント」を実施して部員増加に繋げた。 また、体育祭を7月に実施し、学園祭を11月に実施予定である。 ■7階演習室の「個人スペース」は認知度や利用方法に課題があるため、教職員へ今一度周知する。	■退学防止への協力体制強化の一環として、1年生クラス担任とカウンセラーによる懇談会を9月に実施し、事例や事例に対する対応、工夫などの情報共有を図った。 ■サークル活動では、バドミントンサークルが短大との交流試合を実施、イラストサークルが学園祭のキャラクターを作成、クッキングサークルが季節イベントとOC参加、ダンスサークルが学園祭・OCへ参加するなど、活発に活動した。また体育祭では学科を超えた交流、学園祭では地域を取り込むなどの活動があった。 ■7階演習室「個人スペース」は複数の学科の学生による一定の利用があり、学生たちの居場所になっているため、次年度も継続して開放・活用する。

大項目	中項目	2023年度報告書における意見・課題	区分	担当	■意見・課題への取り組み・改善の進め方 ※1	中間点検 ※2	年度末点検※3
	4. 学生生活	○今は、在籍している学生も多様化してきている。学力の幅も広く、メンタルに問題のある子もいる中で、教育にどれだけ真剣に取り組めるかが学校の存在意義として問われる。一人一人に寄り添って、全員を就職させるような教育を今後ともやっていただければと思う。(2023年度総評)	新規	校長	■本校が行っている職業教育は、就業することを第一目的としている。 学生の多様化も進んでいるが、担任、カウンセラーが連携しながら退学を防止し、またキャリアサポートセンターと担任がタッグを組み、高い就職志望率と就職決定率を維持できるよう取り組んでいく。	■人手不足を背景に、例年に比べても高い内定状況を達成している。担任とキャリアサポートセンターも密に連絡を取り、これを支援している。	■猛烈な入不足の追い風を受け、就職希望する学生は、ほぼ就職決定した。
			新規	医療秘書科	■担任は5月中を目途に学生との個人面談を行い、学習意欲や自己の成長を妨げる要因がないか、丁寧なヒアリングを行う。必要に応じ、保護者や学生相談コーナー、保健室、合理的配慮検討委員会等と連携を取り支援を行う。	■5月中に学生面談は終了した。学生の抱える問題は年々多様化しているため、必要に応じて複数回の面談を行っている。また学務課やCSCにも協力を仰ぎ、学生が相談しやすい環境作りを心がけている。	■本年度は健康面の不調やメンタル不全により登校困難な学生対応へのサポートが例年以上に必要であった。教員としては事務局や学生相談コーナーと連携して社会資源の利用についてもアドバイスし、できる限りのサポートに徹することができた実感している。
			新規	医療事務IT科	■入学前の提出書類や面談記録などから学生を知るように努力している。また入学後の早い段階より、全学生と面談を実施し、状況を共有、全教員で学生を見守る体制をとっている。トラブルか、またはトラブルになりそうな場合には、速やかに各部署に連絡、保護者やカウンセラーの意見、協力を仰ぎながら、適切な対応を行うよう努めている。	■各担任による学生面談は終了。日々の学生とのコミュニケーションが円滑なものとなるよう意識している。また、毎月行う学科会議で学生情報を共有し、担任だけでなく、学科教員全員で学生を見守っている。各部署との綿密な連携を怠らず、トラブル時は速やかに問題が解決するように努めている。	■学科教員全員で学生を見守ることができた。各部署と連携し、大きなトラブルはなく学校生活を送ることができた。
			新規	診療情報管理科	■入学前の提出書類や面談記録などから学生を知るように努力している。また入学後の早い段階より、全学生と面談を実施し、状況を共有、全教員で学生を見守る体制をとっている。トラブルか、またはトラブルになりそうな場合には、速やかに各部署に連絡、保護者やカウンセラーの意見、協力を仰ぎながら、適切な対応を行うよう努めている。	■各担任による学生面談は終了。日々の学生とのコミュニケーションが円滑なものとなるよう意識している。また、毎月行う学科会議で学生情報を共有し、担任だけではなく、学科教員全員で学生を見守っている。各部署との綿密な連携を怠らず、トラブル時は速やかに問題が解決するように努めている。	■学科教員全員で学生を見守ることができた。各部署と連携し、大きなトラブルはなく学校生活を送ることができた。
			新規	くすり・調剤事務科	■各期ごとに担任が面談を実施し、学生の状況把握に努めている。兼任講師とも欠席や授業の様子などを共有し、気になる学生については都度面談や家庭への連絡を実施する。 ■就職活動においては、キャリアサポートセンターと共に各学生の状況に合わせた支援を行い、希望者全員の就職を目指す。	■前期開始時に全員を対象として面談を行っている。また、必要と思われる学生に対しても随時面談を行い、より早期に対応できるような体制づくりを行っている。 ■出席や成績が芳しくない学生に対しては、早期に保護者へ書面や電話連絡を行い、情報の共有や連携を取っている。	■後期開始時に全員を対象として面談を行った。また、必要と思われる学生に対しても随時面談を行い、教員間で情報共有し、対応した。 ■出席や成績が芳しくない学生に対して、前期同様に保護者も含めて対応を行った。
			新規	介護福祉科	■クラス担任による個人面談を、定期及び臨機応変に実施し、学習面・生活面・経済面・心理面等の理解に努める。 ■クラス担任に一任ではなく、状況により学科として検討し、学生の潜在能力が引き出され、成長発達に繋がるよう、粘り強く最適解をつくっていく。	■クラス担任による個別面談は適宜実施している(1年生・2年生)。面談だけではなく、各担任は日々教室に足を運び、授業時間以外の学生の様子(変化)を観察している。	■今年度もクラス担任を中心に個々の学生に応じて、学科全体で支援を実施することができた。 ■CSCと連携を密にして支援を実施。就職希望者全員が内定を得ることができた。
			新規	看護科	■各学年2人担任制とし学生に細やかに目が行き届くように配置している。また、全員対象に前期と後期に面談を実施し個々の状況を把握している。学科教員会議で学年報告の場を設け全教員で必要な事は共有している。また面談記録を残し、3年間継続した関りが出来るように取り組んでいる。更に必要時は個人面談を行い個々に対応を行っている。実習等において問題が生じた場合は保護者に連絡し状況を共有し必要時は専門医のアドバイスなどを受け対応を検討しながら取り組んでいる。	■前期は各学年担任が全員の学生と個人面談を行っている。特に指導が必要な学生には個別面談なども行い支援をしている。しかし、経済的理由や進路変更などにより退学を申し出る学生も存在した。	■看護師資格取得に向けて入学してきた学生が授業・実習が進む中で進路に悩み退学を決意する事もある。保護者との相談もできないケースもあり保護者との連携も必要なケースも増えてきた。今後もこの課題は持続すると思われるが可能な支援を継続しながら取り組んでいく。
			新規	CSC	■キャリアサポートセンターでは幅広い学生に対し、それぞれに合った個別の指導を徹底している。特に面接指導においては、ここ数年、個人に合わせた個別の面接指導を重視した指導を行っており、今年度も一層強化していきたい。	■学生に対し、それぞれに合った個別の指導を徹底している。特に面接指導において、個人に合わせた個別の面接指導を行っている。またそれぞれの志向に合わせた就職先のあっせんも行っている。	■今年度もそれぞれに合った個別の指導を徹底してきた。特に面接指導において、個人に合わせた個別の面接指導を行ってきた。それぞれの志向に合わせた就職先のあっせんも行っていて、ほぼ全員の希望の就職先への内定に繋げる事ができた。
7 学生の募集と受入れ	1. 学生募集活動	○高校における専門学校の理解や認識が必ずしも進んでいない。学科ごとに、仕事内容、雇用形態、卒業生の様子、企業の評価などの情報提供をもっと工夫してほしい。 ○仕事の魅力や就職率の高さをいかに高校教員や保護者に発信していくかが大事である。(2023年度総評)	新規／継続	広報室	■首都圏の重点校を中心に高校訪問を行い、本校の特徴を理解してもらうとともに、卒業生情報を提供して信頼関係の構築をはかっている。また、昨年度の募集活動を検証してアピールすべき情報を精査し、本校の強みである就職の強さと業界からの高い評価のほか、医療・福祉分野の仕事の魅力を訴求していくよう心掛ける。	■1都4県の重点校のほか、今年度より通信制・サポート校も加えて全事務局体制で高校訪問を実施した。入学実績校には学生や卒業生の情報提供を行うことでリレーションを深めた。学費減免制度の紹介のほか、医療福祉分野の各職種・仕事内容や求人数の多さ、医事系での大規模病院への就職の強さなど、本校の特色を訴求している。	■中間点検同様、高校訪問時には就職の強さ、資格取得実績を含む確かな教育力、特待生制度のある入試など本校の特徴や、医療・福祉分野の安定性や将来性の訴求のほか、卒業生状況の情報提供を行った。
9 法令等の遵守	2. 個人情報保護	○学生には、特にSNSについて、個人情報保護、プライバシー保護、守秘義務等の観点からの注意喚起が引き続き求められる。	継続	事務局長	■SNSにおける、個人情報、プライバシーの保護、守秘義務の徹底に関して、学生、教職員への注意喚起を行う。 ■各学科の実習指導において十分な指導が図られているか確認する。	■学生生活ガイド及びオリエンテーションにおいて注意喚起を行った。 ■指導状況等については後期授業開始後に確認を実施する。	■新年度の注意喚起を計画どおり実施した。 ■後期開始時の学科長会において、前期におけるトラブル等が起こっていないことを確認した。
			継続	学生委員会	■個人情報の取扱いについて本校のポータルサイトに掲載するだけでなく、年間を通してメール配信等で随時注意喚起をする。	■4月初めのオリエンテーションの中だけでなく、ポータルサイト掲載、メール送信で注意喚起を行った。	■個人情報の取り扱いについての内容をポータルサイトに掲載し、いつでもどこでも見られる状態にしている。委員会として注意喚起を引き続き行っていく。
10 社会貢献・地域貢献	2. ボランティア活動	○ボランティア活動は人材育成の観点から有意義なものであるため、さらに仕掛けを工夫して奨励してほしい。	継続	校長	■学校に依頼の来るボランティアだけでなく、より関わりやすくするため、まずは教職員が活動を開始し、徐々に学生を巻き込んでいくよう活動していく。	■地域への参画(防災、イベント等)に教職員の一部が参加し、今後の学生を巻き込んだ活動の布石を行っている。	■学生のボランティア参加は苦戦した。今後、ある程度の仕組みが必要である。教職員は、地域との接点(お祭り、学園祭ポスター掲示)が増え、今後に期待したい。
		○ボランティア活動について、ぜひ学校を挙げて進めていただきたい。(2023年度総評)	新規	学生委員会	■地域との連携や、近隣の介護福祉施設と連携し、ボランティア活動に協力する。留学生の異文化交流や、学生に社会貢献の在り方を理解させるなど、ボランティア活動を通して学業とは別の角度で教育を行う。	■近隣の介護福祉施設内カフェスペースにおいて実施している食堂に学生がボランティアとして継続している。また地域のお祭りボランティアの依頼があり、学生にメールや掲示物で告知を行った。	■地域へのお祭りボランティアなどへは経営企画室が「地域連携」の一環として参加しており、学生と職員が一緒に参加出来るようなボランティア活動への参加を検討する必要がある。